

異国で日本文化を築いた釜石人

いつまでも変わらぬ 故郷への愛



代表作である「ブエノスアイレス日本庭園」

南米アルゼンチンで半世紀以上、造園技師として活躍する本市出身の猪又康夫さん（84）が6年ぶりに帰郷しました。遠く離れた地で高い評価を受ける釜石人の半生を紹介します。

人生の探求と異国への渡航

1938年、上中島町に生まれた猪又さんは、造園技師として国内外で活躍した叔父の影響もあり、東京農業大で造園を学んだ。大学卒業後、北海道札幌市の造園会社で勤務したが「決まった人生を歩むのは嫌だ」と決意し、27歳の時にアルゼンチンへと渡った。

ブエノスアイレス北部のエスコバル市に住み、造園業を始めたが、日本文化への馴染みは薄く、注文してくれる人は少なかった。しかし、ひたむきに仕事

に打ち込んだ。その努力が実を結び、69年には「日本人入植記念の日本庭園の完成」、78年には「ブエノスアイレス日本庭園の大規模改修」、毎年行われる全国花祭りでは、大展示場装飾の総監督を長年にわたり続けるなど、着実に実績を積み重ねていった。そうした活動が評価され、2020年には日本文化の普及、在留邦人、日系人への福祉功労で「旭日双光章」を受章した。猪又さんは、自身の活動を「商売は苦手。けれども（アルゼンチンにおける）日本文化の基礎は作れたと思う」と振り返る。

深夜の凶報と故郷への愛
日本とアルゼンチンは12時間の時差がある。2011年3月11日を迎えた深夜、猪又さんの下に凶報が届いた。「すぐにテレビをつけ、これが本当に現実かと啞然とした」当時、在アルゼンチン岩手県人会の会長を務めていた猪又さんは、すぐに県人29家族に連絡し、募金活動を行った。「皆募金活動に協力してくれて、いかに在亜の県人が故郷を愛しているかが改めて分

かった。真心を送ることが出来たと思う」と猪又さんは当時を振り返る。



座右の銘は
「慾無ければ一切足り 求むる有れば萬事弱す」

心は釜石と共に
同級生も少なくなり、現在帰郷しても集まるのは数人。けれども、猪又さんは愛する故郷をこう語る。「魚介をはじめ、うまい食べ物が多いのはもちろん、普段連絡を取っていなくても、船や車を出してくれたり、こんなにも温かく歓迎してくれる仲間がいる。離れていても心はつながっている——」。

6年ぶりに三陸の空気をまとった釜石人は、故郷の景色と友に生涯現役を誓い、穏やかな笑みを浮かべた。

ふるさと納税限定

釜石産木材×ロクシタンのオリジナルセットが完成しました

ふるさと納税*の返礼品「釜石産木材とロクシタンのディーニュレ・バンラベンダー観光農園オリジナルセット」が完成しました。このセットは、市がロクシタンジャパンと本年5月に締結した連携協定を基に、商品を提供いただき実現したものです。ふるさと納税サイト「楽天ふるさと納税」と「ふるさとチョイス」で寄付額4万円の返礼品として100セット限定で受け付けています。

*ふるさと納税は、市外に住所がある人限定で利用できます。

市外のお知り合いへの紹介をお願いします



釜石産木材を原材料としたカトラリーセットとロクシタン商品のセットです

